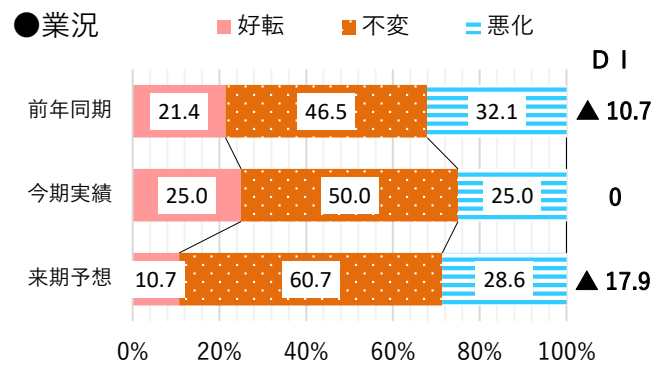


製造業

業況、売上、採算

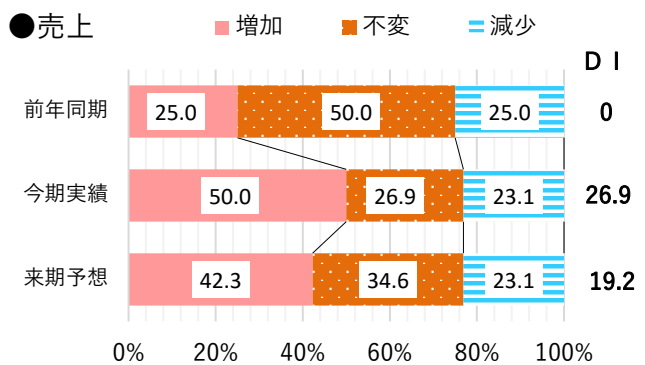
今期（2026.7～9）の業況DIは0で、前年同期（2025.7～9）と比べ10.7ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲17.9で、今期（2026.7～9）と比べ17.9ポイント低下すると予想しています。



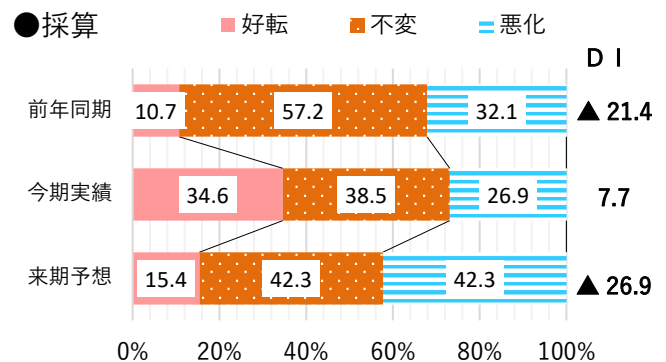
今期の売上DIは26.9で、前年同期と比べ26.9ポイント上昇しました。

来期の売上DIは19.2で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。

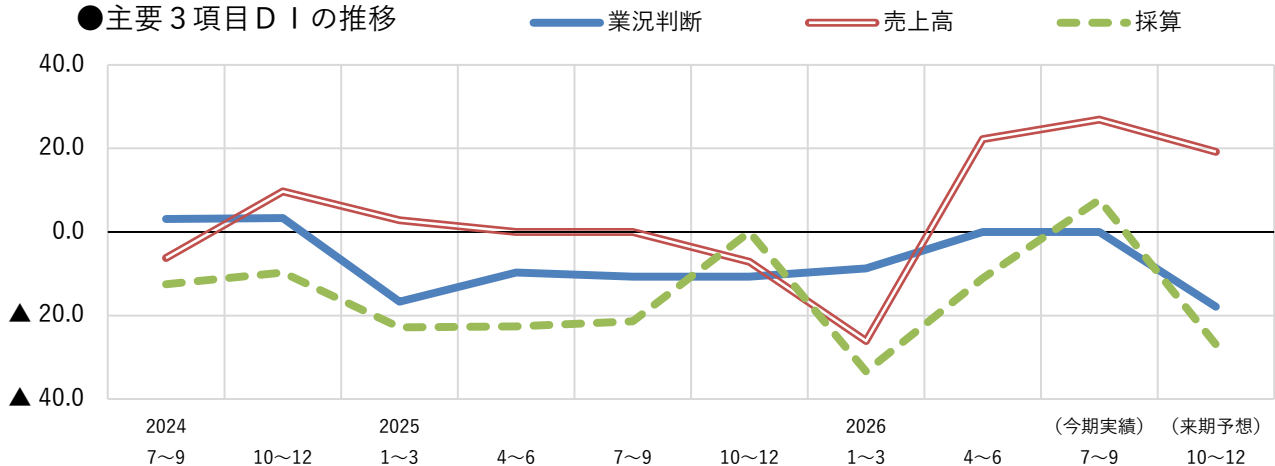


今期の採算DIは7.7で、前年同期と比べ29.1ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲26.9で、今期と比べ34.6ポイント低下すると予想しています。



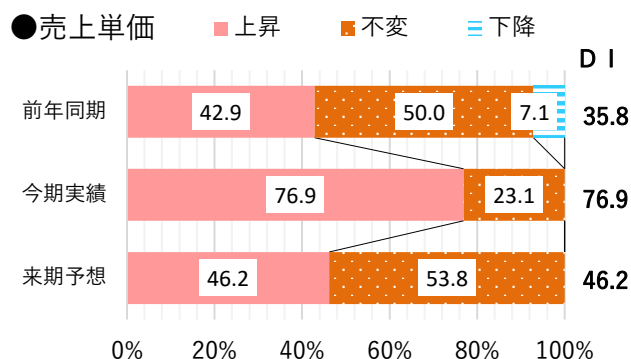
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

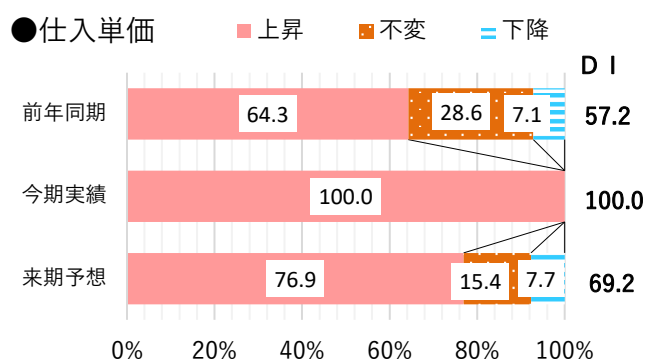
今期の売上単価DIは76.9で、前年同期と比べ41.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期の売上単価DIは46.2で、今期と比べ30.7ポイント低下すると予想しています。



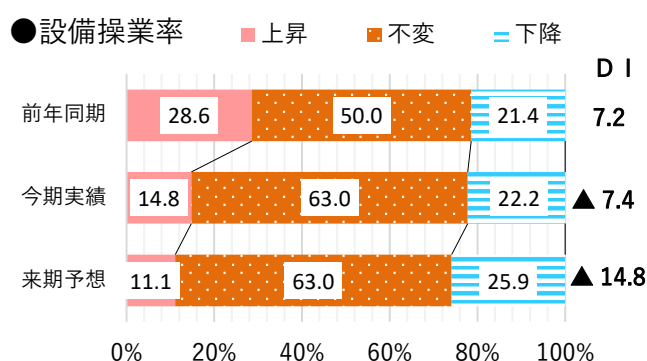
今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期の仕入単価DIは69.2で、今期と比べ30.8ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲7.4で、前年同期と比べ14.6ポイント低下しました。

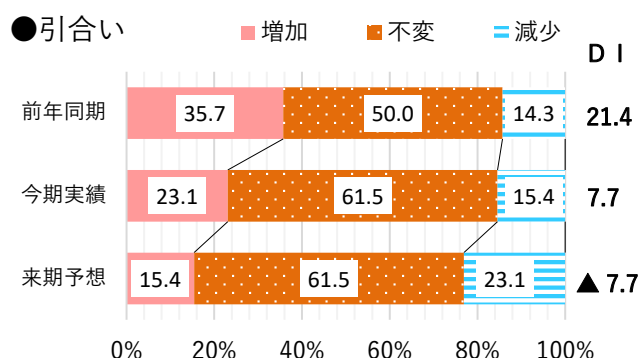
来期の設備操業率DIは▲14.8で、今期と比べ7.4ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは7.7で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

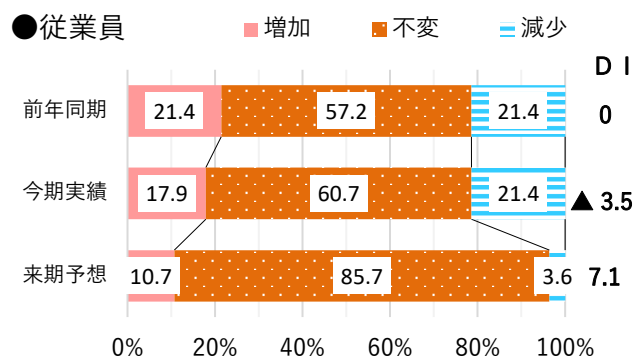
来期の引合いDIは▲7.7で、今期と比べ15.4ポイント低下すると予想しています。



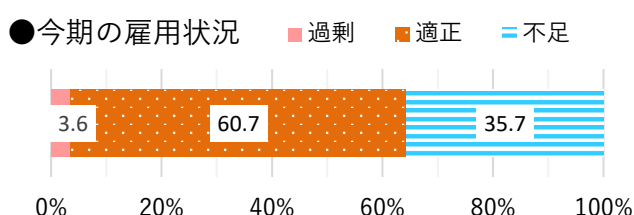
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.5で、前年同期と比べ3.5ポイント低下しました。

来期の従業員DIは7.1で、今期と比べ10.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は3.6%、適正であると回答した企業の割合は60.7%、不足していると回答した企業の割合は35.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、42.9%を占めました。

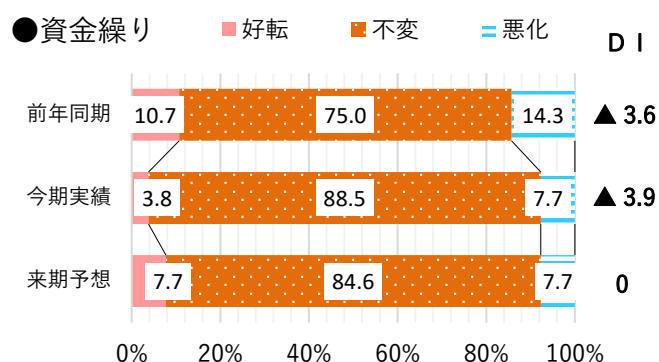
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	10.7%
	不足	7.1%
不変だった	過剰	3.6%
	適正	42.9%
	不足	14.3%
減少した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	14.3%

回答総数28社

資金繰り、設備投資

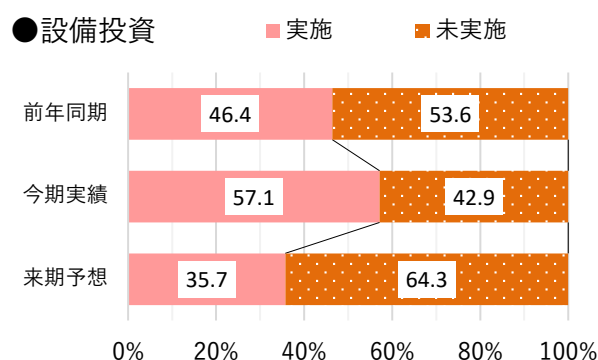
今期の資金繰りDIは▲3.9で、前年同期と比べ0.3ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは0で、今期と比べ3.9ポイント上昇すると予想しています。



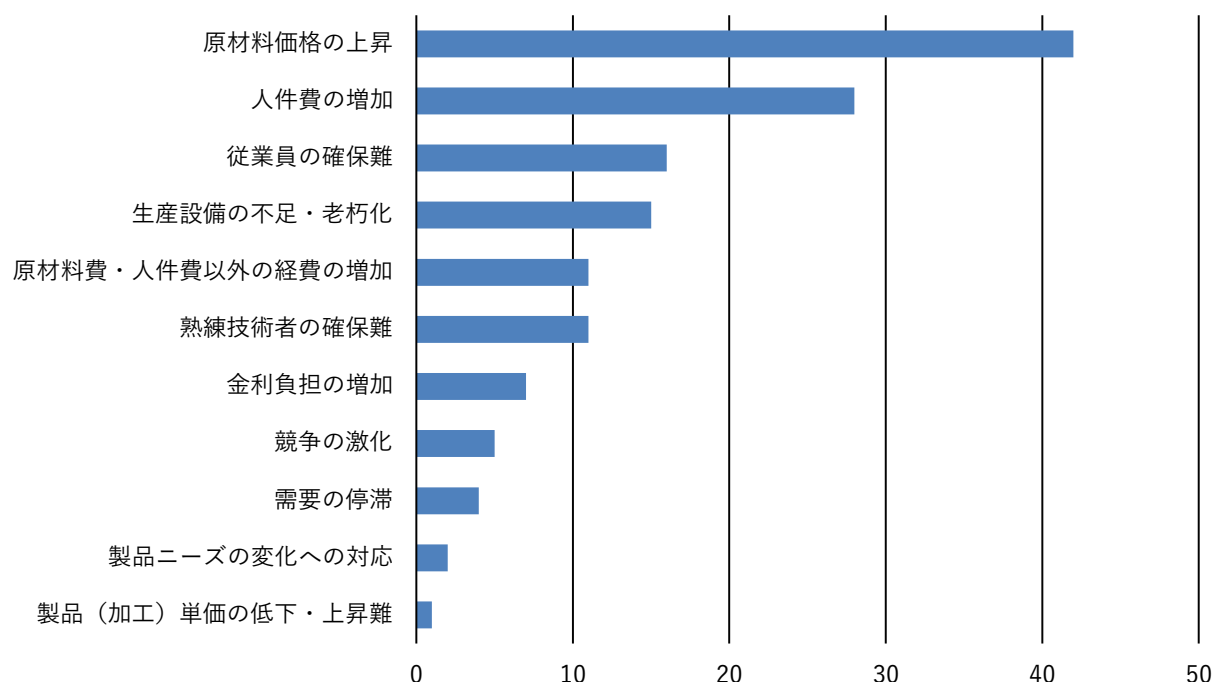
今期の設備投資は57.1%が実施と回答し、前年同期と比べ10.7%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「生産設備」でした。

来期は35.7%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 採算が取れない商品を整理したことで、業況が好転した。（食料品）
- 売上高が伸長し、業況が好転した。（食料品）
- 原材料価格が引き続き上昇しており、主要材料が創業以来の最高値で推移している。（金属製品）
- 遅れていた複数の大型プロジェクトが動き出した。（金属製品）
- 3月以降、原油やナフサ等の確保危機があり、取引先から早めの注文が殺到した。取引先への製品供給責任から高騰した原料や副原料を調達したが、製品の値上げを受け入れてもらったので採算は確保できている。また、早めの注文で工場の稼働率が例年以上に上がり、売上高が上昇した。消費者物価高騰対策と人材確保を意識し例年より賃上げの割合を見直した。（プラスチック）

- ナフサ由来の原材料は4～5月と比べると安定した入荷となったが価格は高止まりしている。原材料不足による仮需要も落ち着いてきた。（プラスチック）
- 販売単価の上昇により売上額が増加したが、原材料費の仕入単価も上昇した。人手不足も解決していない。（プラスチック）
- 仕入価格と人件費の上昇による価格転嫁で、売上額も上昇した。（紙製品）
- 防衛省被服類の加工受注が順調で前期に引き続き採算の好転を見込む。（衣服）
- 売上は増加したが、原材料費や人件費も高騰しているため、業況は不変となった。これから9月と10月が主力事業の履物部門(長靴やスノーブーツ)の法人販売がピークを迎えるため、売上および利益を上げられるかが勝負となる。（ゴム製品）
- 仕入価格と最低賃金の上昇があり、業況が悪化した。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

- 複数の大型プロジェクトの本格稼働を見込む。（金属製品）
- 酒税の増税に伴い不安要素はあるが、新酒の発売が売上に好影響をもたらすことを期待する。
（飲料）
- 取引先への納期対策は一段落したが売上高が減少し、それに伴い利益は減少を見込む。原料、副原料価格は徐々に低下すると予想する。人材確保は求人会社を通じて行っていく。（プラスチック）
- 価格転嫁を行い、売上と利益の向上を引き続き目指しているが、昨今は原材料費の高騰や最低賃金の上昇幅が大きくなっていることから釣り合いをとれるか不透明である。（プラスチック）
- 北海道の農産資材は順調だが水産関係の資材は落ち込むと予想している。また、仮需要の反動による受注の減少も考えられる。（プラスチック）
- 価格単価が上昇で販売数量の減少が見込まれ、それによって工場の稼働率低下が予想される。
（プラスチック）
- 不変と予測する。（紙製品）
- 人件費などの経費の増加により業況の悪化を見込む。（その他繊維製品）